予防接種を受ける方へ

～受ける前に必ずお読みください～

〈肺炎球菌感染症について〉

肺炎球菌感染症とは、肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気です。この菌は、主に気道の分泌物に含まれ、唾液などを通じて飛沫感染します。日本人の約５～10％の高齢者では鼻や喉の奥に菌が常在しているといわれています。これらの菌が何かのきっかけで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすことがあります。

接種対象者

① 65歳の方（接種日時点）

② 60歳から64歳の方で、心臓、腎臓、呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活を極度に制限される方や、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方。

※ 任意接種により過去に肺炎球菌予防接種を受けたことがある方で、予防接種を受ける必要がないと医師に認められた方は、このお知らせが届いている方でも定期接種の対象となりません。

※ 助成の対象は生涯一度だけとなります。

肺炎球菌ワクチンについて

沈降20価肺炎球菌結合型ワクチンを１回筋肉内に接種します。

肺炎球菌ワクチンの効果

肺炎球菌には100種類以上の血清型があり、定期接種で使用される「沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン（PCV20）」は、そのうちの20種類の血清型を対象としたワクチンであり、この20種類の血清型は成人の侵襲性肺炎球菌感染症（※）の原因の約5～6割を占めるという研究結果があります。また、「沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン（PCV20）」は、血清型に依らない侵襲性肺炎球菌感染症の3～4割程度予防する効果があります。

※侵襲性感染症とは、本来は菌が存在しない血液、髄液、関節液などから菌が検出される感染症のことをいいます。

予防接種を受ける前に

注意①　その他の予防接種との接種間隔について

医師が特に必要と認めた場合は、インフルエンザワクチンやコロナワクチン、帯状疱疹ワクチン等他のワクチンと同時接種が可能です。また、他のワクチンとの接種間隔に制限はありません。

注意②　予防接種を受けることができない方

ア　明らかな発熱がある方（37.5℃以上）
イ　重篤な急性疾患にかかっている方
ウ　接種液の成分やジフテリアトキソイドによってアナフィラキシーを起こしたことがある方
エ　その他、予防接種を行うことが不適当な状態にあると医師が判断した方

注意③　接種を受けるに際し、担当医師と相談が必要な方（接種の判断に際し、注意を要する方）

ア　心臓、腎臓、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する方
イ　これまでに、予防接種を受けて２日以内に発熱や全身の発疹などのアレルギー症状があった方
ウ　けいれんを起こしたことがある方
エ　免疫不全と診断されている方や、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
オ　接種液の成分やジフテリアトキソイドに対してアレルギーを起こす恐れのある方
カ　抗凝固療法を受けている方、血小板減少症または凝固障害のある方

接種後の副反応等の注意

ア　ワクチンの接種後 30 分程度は安静にしてください。また、体調に異常を感じた場合には、速やかに医師へ連絡してください。
イ　注射した部分は清潔に保つようにしてください。接種当日の入浴は問題ありません。
ウ　当日の激しい運動は控えるようにしてください。

沈降 20 価肺炎球菌結合型ワクチン（PCV20）の安全性

ワクチンを接種後に以下のような副反応が見られることがあります。また、頻度は不明ですが、アナフィラキシー様反応、血小板減少性紫斑病、けいれんがみられることがあります。接種後に気になる症状を認めた場合は、速やかに接種医あるいはかかりつけ医に相談しましょう。

発現割合	主な副反応
30％以上	接種部位の疼痛・圧痛（59.6％）、筋肉痛（38.2％）、疲労（30.3％）
10％以上	頭痛（21.7％）、関節痛（11.6％）
1％以上	紅斑、腫脹

予防接種健康被害救済制度について

予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすことができないことから、救済制度が設けられています。申請に必要となる手続きなどについては、健康長寿課までご相談ください。

個人情報について

個人情報は事後指導、または個人を特定できない形の統計情報等として使用されることがありますが、目的外に使用されることはありません。